

当麻町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は、上川地方のほぼ中央部に位置し、水田総面積に占める水稲作付けの割合が約74%で、水稲栽培を主体とした中、農業経営の安定を図るべく施設野菜・花きとの複合経営、一部畑作物（大豆、そば、飼料作物）の導入が行われている。

また、主食用米の需要が減少する中、米産地として米の販売戦略・拡大を図り、水田機能を維持・確保するための水張転作の中心作物として、加工用米を推奨し、一部に新規需要米の取り組みを行うことが、当麻農業の経営安定と北海道一の米産地の継続に繋がるものと考えるところである。

地域の課題としては、農業者の高齢化が進み、農家戸数の減少が見られる中、当麻における水張面積も直近5カ年で100ha程度減少しており、将来にわたる持続的な売れる米づくりを実現させるためにも、白米販売強化はもとより、需要動向に応じた加工用米など用途別の需要にも戦略的に対応し、新品種を含めた新しい技術革新を積極的に取り入れ、的確な情報提供を行い、水稲を中心とした施設園芸の産地として、各地域の担い手と後継者の合意を得たビジョンに沿って、更なる生産拡大と生産性向上を図るとともに、担い手の育成についても進めていくことが重要と捉えている。

また、担い手後継者の育成と確保、規模拡大に取り組む担い手の負担軽減、各地域における担い手への農地集積の推進も重要な課題であり、これらの課題に対しても同様に的確な情報提供に努めるものとする。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

売れる米づくりを追求し、産地精米と他産地との差別化を図り、独自の白米販売強化と販路拡大に努め、農業者所得の向上を目指し、販売業者等の需要に応える競争力の確保と生産基盤の維持・低コスト・省力化栽培への取組も強化する。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

需要動向や畜産農家、販売先の意向を調査し、水田機能維持・確保のための水張転作の一つのツールとして需要要請に対応し生産に取り組む。

イ 米粉用米

需要動向や販売先等の意向調査をし、水田機能維持・確保のための水張転作の一つのツールとして需要要請に対応し生産に取り組む。

ウ 新市場開拓用米

主食用米の国内需要が減少する中、内外のコメの新市場の開拓を図るため、飼料用米、米粉用米を除く新規需要米の生産振興を図る。

エ WCS 用稲

需要動向や畜産農家等の意向を調査し、水田機能を維持・確保していくため、水張り転作のツールとして検討を図る。

オ 加工用米

主食用米の需要減少による生産の目安の減少が見込まれる中、北海道一の米産地として水張面積を維持していくため、加工用米の生産を水張転作の中心として位置づける。

(3) 麦、大豆、飼料作物

販売先の需要動向を把握して、需要に対応でき、且つ収量性の高い優良品種への模索・転換を図った上で生産を図る。又、安定した品質・収量を目指し、且つコスト削減に努めるために、湿害を回避するための排水対策の取り組みの推進と除草対策等の推進を図り、更には団地化による作業集積により作付面積の維持・拡大を図る

(4) そば、なたね

転作作物として重要な農作物であるため、収量性向上に向けて、湿害を回避するための排水対策等を徹底する取り組みの推進と除草対策等の推進を図り、更には団地化による作業集積により生産コスト削減を図り、作付面積の維持と、品質及び収量の安定化を図る。

(5) 高収益作物（野菜・花卉等）

水田農業にとって重要な高収益作物であり、当地では産地ブランドも多く、販売先からの需要も高いため、水稲との複合経営によって、農業所得の確保と産地ブランドとして更なる強化を図るべく地域振興作物として位置づけ奨励を図る。

安全・安心な農産物が求められる中、消費者・実需者からニーズの高い野菜、花きに対して、今後産地として生き延びていくための大きなツールとなることから、振興作物への対策を講じ拡大を図る。

【地域振興作物】産地交付金の活用方法の明細に定める作物一覧（別紙参照）

(6) 耕畜連携

利用協定に基づき生産された粗飼料作物等の供給を受けた家畜の排せつ物からなるたい肥を散布することで資源循環を図る。

(7) 畑地化の推進

野菜・畑作物の本作化を執り進め、水田活用交付金からの脱却を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	2,386	2,426	2,500
飼料用米	16	14	14
米粉用米	2	2	2
新市場開拓	0	3	5
WCS 用稲	0	0	0
加工用米	203	162	96
備蓄米	0	0	0
麦	0	0	0
大豆	109	109	100
飼料作物	438	437	437
そば	188	188	180
なたね	0	0	0
その他地域	62	63	65
野菜	55	55	56
花卉	6	6	7
菜豆類	1	2	2

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	現状値		目標値	
				現状値	目標値	現状値	目標値
1	そば・デントコーン・子実とうもろこし	品質・収量向上除草対策加算	作付面積（そば） 平均収量（そば） 作付面積（デントコーン） 平均収量（デントコーン） 作付面積（子実とうもろこし） 平均収量（子実とうもろこし） ※平均収量は10a当たり	188ha（29年度） 62kg（29年度） 9ha（29年度） 3,895kg（29年度） 13ha（29年度） 476kg（29年度）	180ha（32年度） 68kg（32年度） 9ha（32年度） 4,100kg（32年度） 20ha（32年度） 550kg（32年度）		
2	大豆	品質・収量向上除草対策加算	作付面積（大豆） 1等大豆生産率	109ha（29年度） 6.6%（29年度）	100ha（32年度） 10.0%（32年度）		
3	大豆	品質・収量向上除草対策加算	作付面積（大豆） 1等大豆生産率	109ha（29年度） 6.6%（29年度）	100ha（32年度） 10.0%（32年度）		
4	そば・大豆・デントコーン（子実とうもろこし含む）	排水対策助成	作付面積（そば） 平均収量（そば） 作付面積（大豆） 平均収量（大豆） 作付面積（デントコーン） 平均収量（デントコーン） 作付面積（子実とうもろこし） 平均収量（子実とうもろこし） ※平均収量は10a当たり	188ha（29年度） 62kg（29年度） 109ha（29年度） 156kg（29年度） 9ha（29年度） 3,895kg（29年度） 13ha（29年度） 476kg（29年度）	180ha（32年度） 68kg（32年度） 100ha（32年度） 180kg（32年度） 9ha（32年度） 4,100kg（32年度） 20ha（32年度） 550kg（32年度）		
5	大豆	品質安定加算	作付面積（大豆） 1等大豆生産率	109ha（29年度） 6.6%（29年度）	100ha（32年度） 10.0%（32年度）		
6	そば	品質安定加算	作付面積（そば） 平均収量（そば） 等級そば生産率 ※平均収量は10a当たり	188ha（29年度） 62kg（29年度） 90.5%（29年度）	180ha（29年度） 68kg（32年度） 93.0%（32年度）		
7	子実とうもろこし	品質安定加算	子実とうもろこし作付面積刈 販売金額（10a当たり）	13ha（29年度） 15,951円（29年産）	20ha（32年度） 18,670円（32年産）		

8	そば・野菜・花き・ 豆類・馬鈴しょ・ デントコーン・子 実とうもろこし	担い手振興作物加算	作付面積（そば） 担い手割合（そば） 地域販売金額（そば） 作付面積（野菜・花き） 担い手割合（野菜・花き） 地域販売金額（野菜・花き） 作付面積（豆類・馬鈴しょ） 担い手割合（豆類・馬鈴しょ） 地域販売金額（豆類・馬鈴しょ） 作付面積 （デントコーン・子実とうもろこし） 担い手割合 （デントコーン・子実とうもろこし） 地域販売金額 （デントコーン・子実とうもろこし）	188ha（29年度） 65.6%（29年度） 23,228千円（29年度） 61ha（29年度） 66.3%（29年度） 906百万円（29年度） 143a（29年度） 34.8%（29年度） 423千円（29年度） 22ha（29年度） 76.9%（29年度） 9,598千円（29年度）	180ha（32年度） 70.0%（32年度） 24,127千円（32年度） 63ha（32年度） 70.0%（32年度） 949百万円（32年度） 170a（32年度） 70.0%（32年度） 490千円（32年度） 29ha（32年度） 85.0%（32年度） 13,772千円（32年度）
9	野菜・花卉	振興作物助成	野菜・花卉作付面積	61ha（29年度）	63ha（32年度）
10	豆類・馬鈴しょ	振興作物助成	豆類・馬鈴しょ作付面積 豆類・馬鈴しょ販売金額	143a（29年度） 423千円（29年度）	170a（32年度） 490千円（32年度）
11	地力増進作物	振興作物助成	連作回避を目的とした作付面積 基盤整備に伴う作付面積	8ha（29年度） 27ha（29年度）	5ha（30年度） 20ha（30年度）
12	大豆・そば・牧草・ デントコーン（子 実とうもろこし含 む）	団地化加算	作付面積（大豆） 団地化率（大豆） 作業時間削減率（大豆播種） 作付面積（そば） 団地化率（そば） 作業時間削減率（そば播種） 作付面積（牧草） 団地化率（牧草） 作業時間削減率（牧草掃除刈） 作付面積（デントコーン） 団地化率（デントコーン） 作業時間削減率（デントコーン播種） 作付面積（子実とうもろこし） 団地化率（子実とうもろこし） 作業時間削減率（デントコーン播種）	109ha（29年度） 60.1%（29年度） 24.0%（29年度） 188ha（29年度） 21.1%（29年度） 8.4%（29年度） 416ha（29年度） 63.0%（29年度） 28.0%（29年度） 9ha（29年度） 68.7%（29年度） 27.6%（29年度） 13ha（29年度） 0.0%（29年度） 0.0%（29年度）	100ha（32年度） 70.0%（32年度） 28.0%（32年度） 180ha（32年度） 30.0%（32年度） 12.0%（32年度） 410ha（32年度） 68.0%（32年度） 30.2%（32年度） 9ha（32年度） 73.0%（32年度） 29.3%（32年度） 20ha（32年度） 50.0%（32年度） 20.0%（32年度）
13	大豆（黒大豆含む）	条件不利地生産性向 上加算	取組面積 条件不利地での取組率（大豆） 平均収量（大豆） ※平均収量は10a当たり	9ha（29年度） 54.9%（29年度） 156kg（29年度）	11ha（32年度） 70.0%（32年度） 180kg（32年度）

14	そば・牧草	条件不利地生産性向上加算	取組面積（そば） 条件不利地での取組率（そば） 平均収量（そば） 取組面積（牧草） 条件不利地での取組率（牧草） 平均収量（牧草） ※平均収量は10a当たり	0ha（29年度） 0.0%（29年度） 62kg（29年度） 0ha（29年度） 0.0%（29年度） 264kg（29年度）	75ha（32年度） 70.0%（32年度） 68kg（32年度） 110ha（32年度） 70.0%（32年度） 280kg（32年度）
15	牧草	飼料作物団地化特別加算	作付面積（牧草） 3ha 団地化率（牧草） 作業時間削減率（牧草掃除刈）	416ha（29年度） 76.1%（29年度） 33.8%（29年度）	410ha（32年度） 85.0%（32年度） 37.8%（32年度）
16	大豆・そば・デントコーン（子実とうもろこし含む）	品質・収量向上技術 取組加算【土壌改良】	作付面積（そば） 平均収量（そば） 作付面積（大豆） 平均収量（大豆） 作付面積（デントコーン） 平均収量（デントコーン） 作付面積（子実とうもろこし） 平均収量（子実とうもろこし） ※平均収量は10a当たり	188ha（29年度） 62kg（29年度） 109ha（29年度） 156kg（29年度） 9ha（29年度） 3,895kg（29年度） 13ha（29年度） 476kg（29年度）	180ha（32年度） 68kg（32年度） 100ha（32年度） 180kg（32年度） 9ha（32年度） 4,100kg（32年度） 20ha（32年度） 550kg（32年度）
17	そば	品質・収量向上技術 取組加算【増収施肥】	作付面積（そば） 平均収量（そば） ※平均収量は10a当たり	188ha（29年度） 62kg（29年度）	180ha（32年度） 68kg（32年度）
18	大豆	品質・収量向上技術 取組加算【増収施肥】	作付面積（大豆） 平均収量（大豆） ※平均収量は10a当たり	109ha（29年度） 156kg（29年度）	100ha（32年度） 180kg（32年度）
19	デントコーン（子実とうもろこし含む）	品質・収量向上技術 取組加算【増収施肥】	作付面積（デントコーン） 平均収量（デントコーン） 作付面積（子実とうもろこし） 平均収量（子実とうもろこし） ※平均収量は10a当たり	9ha（29年度） 3,895kg（29年度） 13ha（29年度） 476kg（29年度）	9ha（32年度） 4,100kg（32年度） 20ha（32年度） 550kg（32年度）
20	飼料作物	資源循環助成（耕畜連携）	作付面積（飼料作物） 取組率	438ha（29年度） 19.4%（29年度）	437ha（32年度） 24.0%（32年度）
21	新市場開拓用米	新市場開拓用米取組 拡大助成	取組面積	0.0ha（29年度）	5.0ha（32年度）
22		畑地化の取組	取組面積	0.0ha（29年度）	15.0ha（32年度）

23	そば	そば作付助成 (追加配分)	作付面積 (そば) 平均収量 (そば) <small>※平均収量は10a当たり</small> 等級そば生産率 作業時間削減率 (そば播種)	188ha (29年度) 62kg (29年度) 90.5% (29年度) 8.4% (29年度)	180ha (32年度) 68kg (32年度) 93.0% (32年度) 12.0% (32年度)
----	----	------------------	--	--	---